

目的 先に服地の白い各種綿織物を試料とし、白さとつやについての官能量と物理量の対応を検討し、報告した<sup>1)</sup>。そこで今回は洗たく後の白さの変化を測定し、それが視覚的にどのようにとらえられるか検討した。

方法 試料はシンモス、アロード、サテンの綿100%の織物で、洗たく処理は噴流式家庭用洗たく機を用い、浴比1:50、水温(12~13℃)、弱アルカリ合成洗剤0.2%で10分間洗たくを行ない、その後、すすぎを5分間(流し洗い)を行ない、脱水1分後、自然乾燥をした。20回まで処理を行ない、試験布として原布、1、5、10、15、20回処理布を用いた。白さの測定はハンター白度およびCIE表色法による色を測定し、原布を基準として洗たく後の色の差をNBS単位で示した。官能検査はSchiffleの対比較法別法(順序効果のない場合)を用い、自然光下で白さとつや、なめらかさについて調べた。被検者は66名の女子大生で、評価は5段階法で、分散分析による有意差検定と官能量の推定を行なった。

結果 1. いずれの布も洗たく回数が増す程、蛍光増白の影響でハンター白度が増大している。2. シンモスとアロードは洗たく1回目と原布との色差は大きく、5目以後の差は極めて小さいが、サテンは5目以後の色差の変化も見られる。3. サテンは洗たく回数による色相と彩度の変化量が大きい。4. 官能量はいづれについても高度の水準で差が認められた。5. アロードは原布が最も白く、洗たく1目が最も白さが小さく以後洗たく回数が増すと白く見えるが、シンモス、サテンは原布が白さ最小で、以後洗たくを繰り返すと白く見える傾向である。文献) 成瀬・高橋 第7回 繊維連合研究発表会要旨集 P.167 (1975)